

1999	H11	第7回 あま指国家試験
------	-----	-------------

(あま指7) 医療概論	1~2
-------------	-----

あ 7-1 プライマリケアに含まれないのはどれか。

1. 病気の予防
2. 初期治療
3. 専門的治療
4. 健康管理

あ 7-2 施術者の姿勢として誤っているのはどれか。

1. 施術の過程を記録する。
2. 賠償責任保険に加入する。
3. 社会的地位によって施術の内容を変える。
4. 自分の健康管理に努める。

(あま指7) 衛生学公衆衛生学	3~11
-----------------	------

あ 7-3 電離放射線による生体影響はどれか。

1. 遺伝的影響
2. アレルギー
3. 発熱作用
4. 感覚麻痺

あ 7-4 生活習慣病でないのはどれか。

1. 結核
2. 狭心症
3. 高血圧症
4. 糖尿病

あ 7-5 職場での健康障害とその原因との組合せで適切でないのはどれか。

1. 眼の疲れ - VDT作業
2. 腰痛症 - 重労働
3. アルコール依存 - 有機溶剤取り扱い
4. ノイローゼ - 人間関係

あ 7-6 経皮感染する疾病はどれか。

1. コレラ
2. 腸チフス
3. マラリア
4. ジフテリア

あ 7-7 予防接種が有効な感染症はどれか。

1. 赤痢
2. エイズ
3. 梅毒
4. 急性灰白髄炎(ポリオ)

あ 7-8 芽胞を死滅させることのできない消毒法はどれか。

1. 火炎
2. シンメルブッシュ消毒器(煮沸)
3. 高圧蒸気
4. エチレンオキシドガス(EOG)

(あマ指 7) 衛生学公衆衛生学

3～11

あ 7-9 我が国の最近の衛生統計で正しい記述はどれか。

1. 平均寿命は男性の方が長い。
2. 人口は女性の方が多い。
3. 出生数は女児の方が多い。
4. 死亡率は女性の方が高い。

あ 7-10 我が国の最近の死因で最も多いのはどれか。

1. 悪性新生物
2. 心疾患
3. 脳血管疾患
4. 不慮の事故

あ 7-11 我が国の最近の傾向でないのはどれか。

1. 高齢化
2. 少子化
3. 核家族化
4. 早婚化

(あマ指 7) 関係法規

12～15

あ 7-12 施術所の備えるべき要件に含まれないのはどれか。

1. 施術室
2. 待合室
3. 消毒設備
4. 機能訓練室

あ 7-13 あん摩マッサージ指圧師免許の資格要件で欠格事由はどれか。

1. 精神病患者
2. 身体障害者
3. 日本以外の国籍を有する者
4. 大量飲酒者

あ 7-14 免許付与者が厚生大臣でない医療関係職種はどれか。

1. 介護福祉士
2. 準看護婦(士)
3. 作業療法士
4. 柔道整復師

あ 7-15 社会福祉関係の法規はどれか。

1. 生活保護法
2. 老人保健法
3. 救急救命士法
4. 母体保護法

(あマ指 7) 解剖学

16～38

あ 7-16 成熟過程で核を失う細胞はどれか。

1. 神経細胞
2. 卵細胞
3. 赤血球
4. リンパ球

あ 7-17 脾臓を容れている体腔はどれか。

1. 頭蓋腔
2. 脊柱管
3. 胸腔
4. 腹腔

あ 7-18 頭蓋で乳様突起を有する骨はどれか。

1. 頭頂骨
2. 側頭骨
3. 後頭骨
4. 蝶形骨

あ 7-19 胸骨角に連結する肋骨はどれか。

1. 第1肋骨
2. 第2肋骨
3. 第7肋骨
4. 第8肋骨

あ 7-20 上腕の内旋に働く筋はどれか。

1. 棘上筋
2. 棘下筋
3. 小円筋
4. 肩甲下筋

あ 7-21 橈骨茎状突起に停止する筋はどれか。

1. 回外筋
2. 円回内筋
3. 腕橈骨筋
4. 橈側手根屈筋

あ 7-22 膝蓋靭帯と関係ない筋はどれか。

1. 縫工筋
2. 外側広筋
3. 中間広筋
4. 大腿直筋

あ 7-23 鼻腔に開口していないのはどれか。

1. 上顎洞
2. 耳管
3. 鼻涙管
4. 前頭洞

あ 7-24 胃について正しい記述はどれか。

1. 外表面は腹膜で覆われる。
2. 幽門は食道に続く。
3. 内側の弯曲部を大弯という。
4. 下腸間膜動脈によって栄養される。

あ 7-25 肝臓の葉で最も大きいのはどれか。

1. 右葉
2. 方形葉
3. 左葉
4. 尾状葉

あ 7-26 腎臓について正しい記述はどれか。

1. 腎盂から尿道が始まる。
2. 靭帯に支えられている。
3. 腎柱から尿が放出される。
4. 皮質は血管が豊富である。

あ 7-27 精上皮を有する管はどれか。

1. 精細管
2. 精巣輸出管
3. 精巣上体管
4. 精管

あ 7-28 内分泌腺について正しい記述はどれか。

1. 松果体は前頭葉の下面にある。
2. 下垂体は前頭蓋窩の中にある。
3. 上皮小体は甲状腺の後面にある。
4. 副腎は腹膜に包まれる。

あ 7-29 心臓の弁について正しい組合せはどれか。

1. 右房室弁 - 僧帽弁
2. 左房室弁 - 三尖弁
3. 肺動脈弁 - 二尖弁
4. 大動脈弁 - 半月弁

あ 7-30 内頸動脈の枝はどれか。

1. 顔面動脈
2. 眼動脈
3. 浅側頭動脈
4. 上甲状腺動脈

あ 7-31 胸管が血管に連結する部位はどれか。

1. 右鎖骨下動脈と右総頸動脈との合流部
2. 左鎖骨下動脈と左総頸動脈との合流部
3. 右鎖骨下静脈と右内頸静脈との合流部
4. 左鎖骨下静脈と左内頸静脈との合流部

あ 7-32 中脳に属するのはどれか。

1. 脳梁
2. 視床
3. 上丘
4. 錐体

あ 7-33 遠心性伝導路はどれか。

1. 錐体外路
2. 体性感覚路
3. 味覚路
4. 視覚路

あ 7-34 脳神経で副交感神経線維を含むのはどれか。

1. 三叉神経
2. 内耳神経
3. 舌咽神経
4. 舌下神経

(あマ指7) 解剖学

16 ~ 38

あ 7-35 外眼筋で滑車神経に支配されるのはどれか。

1. 外側直筋
2. 上眼瞼挙筋
3. 上直筋
4. 上斜筋

あ 7-36 痛みの受容器はどれか。

1. パチニ小体
2. 自由神経終末
3. マイスナー小体
4. ルフィニ終末(小体)

あ 7-37 喉頭隆起を形成しているのはどれか。

1. 舌骨
2. 喉頭蓋軟骨
3. 甲状軟骨
4. 甲状腺

あ 7-38 腹部と下肢との境界線に関与しないのはどれか。

1. 鼠径溝
2. 下前腸骨棘
3. 尾骨
4. 陰部大腿溝

(あマ指7) 生理学

39 ~ 57

あ 7-39 健康成人の身体の水分組成(重量%)について正しいのはどれか。

1. 約80%
2. 約60%
3. 約40%
4. 約20%

あ 7-40 溶血を起こすのはどれか。

1. 赤血球と好中球との混合
2. 蒸留水の添加
3. 血小板の減少
4. 血液凝固因子の除去

あ 7-41 好中球の作用として正しいのはどれか。

1. ヘモグロビンの合成
2. 酸素の運搬
3. 炎症の抑制
4. 食作用

あ 7-42 健康成人の血小板について誤っている記述はどれか。

1. 血液 1mm³中に約15~40万個ある。
2. 骨髄幹細胞から分化する。
3. 止血作用がある。
4. 有核細胞である。

あ 7-43 心周期において心室内容積が一定で心室内圧が上昇するのはどれか。

1. 収縮期
2. 駆出期
3. 弛緩期
4. 充満期

あ 7-44 腹式呼吸はどれか。

1. 内肋間筋による吸息
2. 外肋間筋による呼息
3. 横隔膜による吸息
4. 腹筋による吸息

あ 7-45 嘔吐の際に起こらないのはどれか。

1. 腹腔内圧の上昇
2. 腹筋の収縮
3. 声門の閉鎖
4. 食道の収縮

あ 7-46 発汗について誤っている記述はどれか。

1. 体温の上昇を防ぐ。
2. 汗腺には交感神経が分布する。
3. 温熱性発汗には大脳皮質が関与する。
4. 環境温が 35 を越えると著しく増える。

あ 7-47 下垂体から分泌されないホルモンはどれか。

1. プロラクチン
2. サイロキシン
3. バゾプレッシン
4. オキシトシン

あ 7-48 軸索終末から興奮が伝達されない細胞はどれか。

1. 腺細胞
2. 骨細胞
3. 筋細胞
4. 神経細胞

あ 7-49 中脳に中枢がある反射はどれか。

1. 嚔下反射
2. 呼吸反射
3. 排尿反射
4. 対光反射

あ 7-50 正常脳波で誤っているのはどれか。

1. 波
2. 波
3. 波
4. 波

あ 7-51 交感神経活動に対する応答で誤っているのはどれか。

1. 縮腫
2. 心拍数増加
3. 血管収縮
4. 腸運動抑制

あ 7-52 筋収縮に関与しないのはどれか。

1. カルシウムイオン
2. アデニン
3. アクチン
4. ミオシン

あ 7-53 心筋について正しいのはどれか。

1. 横紋筋
2. 随意筋
3. 平滑筋
4. 錘内筋

あ 7-54 膝蓋腱反射について誤っている記述はどれか。

1. 受容器は筋紡錘である。
2. 単シナプス反射である。
3. 大腿二頭筋の反射である。
4. 脊髄反射である。

あ 7-55 無髄神経線維によって伝導される情報はどれか。

1. 触覚
2. 筋の伸展
3. 筋の収縮
4. 深部痛覚

あ 7-56 視覚機能に関与しない細胞はどれか。

1. 杆状体細胞
2. 錐状体細胞
3. 有毛細胞
4. 双極細胞

あ 7-57 リンパ球の中でB細胞が関与しないのはどれか。

1. 細胞性免疫
2. 抗体産生
3. 形質細胞への分化
4. 抗原への特異的反応

あ 7-58 女性に多い疾患はどれか。

1. 進行性筋ジストロフィー症
2. 全身性エリテマトーデス
3. 血友病
4. 肺癌

あ 7-59 ホルモンとその分泌低下症との組合せで誤っているのはどれか。

1. サイロキシン - シモンズ病
2. パラソルモン - テタニー
3. 抗利尿ホルモン - 尿崩症
4. インスリン - 糖尿病

あ 7-60 黄疸の発生原因として適切でないのはどれか。

1. 胆嚢内結石
2. 膵頭部癌
3. ウイルス性肝炎
4. 不適合輸血

あ 7-61 出血性素因をきたすのはどれか。

1. ビタミンA欠乏症
2. ビタミンB欠乏症
3. ビタミンD欠乏症
4. ビタミンK欠乏症

あ 7-62 急性炎症の局所に最初に起こる現象はどれか。

1. 好中球浸潤
2. 漿液性滲出
3. 線維索性滲出
4. リンパ球浸潤

あ 7-63 腫瘍に含まれないのはどれか。

1. 筋腫
2. 骨腫
3. リンパ腫
4. 脾腫

あ 7-64 扁平上皮癌の好発部位として誤っているのはどれか。

1. 食道
2. 肺
3. 子宮体部
4. 子宮腔部

あ 7-65 肥満をきたす疾患はどれか。

1. クッシング症候群
2. アジソン病
3. バセドウ病
4. 尿崩症

あ 7-66 表在反射はどれか。

1. 対光反射
2. アシュネル反射
3. 下顎反射
4. 腹壁反射

あ 7-67 運動麻痺の症候でないのはどれか。

1. 下垂手
2. 太鼓ばち指
3. 猿手
4. 尖足

あ 7-68 病的反射でないのはどれか。

1. バビンスキー反射
2. ホフマン反射
3. アシュネル反射
4. チャドック反射

あ 7-69 浮腫と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 心臓性浮腫 - 下肢に初発
2. 腎性浮腫 - 顔面に初発
3. 肝性浮腫 - 腹水
4. 低栄養性浮腫 - 静脈怒張

あ 7-70 打診で濁音が認められるのはどれか。

1. 肺気腫
2. 気胸
3. 腹水
4. 鼓腸

あ 7-71 トレンデレンブルグ徴候はどの関節の障害で起こるか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 股関節
4. 膝関節

あ 7-72 マックマレーテストが陽性となる疾患はどれか。

1. 半月板損傷
2. 十字靭帯損傷
3. 側副靭帯損傷
4. 膝蓋靭帯損傷

あ 7-73 触診で発見できないのはどれか。

1. リンパ節腫脹
2. 胸部大動脈瘤
3. 肝臓の腫大
4. 腹部の腫瘤

あ 7-74 生命徴候に含まれないのはどれか。

1. 呼吸
2. 脈拍
3. 体温
4. 意識

あ 7-75 脳腫瘍の症状はどれか。

1. 発熱
2. けいれん
3. 冷や汗
4. 頻脈

あ 7-76 疾患と検査との組合せで適切でないのはどれか。

1. てんかん - 脳波検査
2. 神経症 - 心理検査
3. 精神分裂病 - MRI検査
4. 知的障害 - 知能検査

あ 7-77 月経痛を起こしやすい疾患はどれか。

1. 子宮内膜症
2. 子宮後転症
3. 慢性付属器炎
4. 子宮体癌

あ 7-78 誤っている組合せはどれか。

1. 水痘 - 帯状疱疹
2. 風疹 - 胎児奇形
3. 麻疹 - 亜急性硬化性全脳炎
4. アトピー性皮膚炎 - ビタミンB₁₂欠乏

あ 7-79 ネフローゼ症候群の症状でないのはどれか。

1. 蛋白尿
2. 高ナトリウム血症
3. 浮腫
4. 低蛋白血症

あ 7-80 バセドウ病の症状はどれか。

1. 体重増加
2. 徐脈
3. 眼瞼下垂
4. 眼球突出

あ 7-81 痛風でみられないのはどれか。

1. 胆管結石
2. 尿路結石
3. 腎障害
4. 急性関節炎

あ 7-82 ベル麻痺の症状でないのはどれか。

1. 味覚障害
2. 難聴
3. 兔眼
4. 閉口不全

あ 7-83 膠原病でないのはどれか。

1. 全身性エリテマトーデス
2. 皮膚筋炎
3. 進行性筋ジストロフィー症
4. 多発性動脈炎

あ 7-84 疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 食道静脈瘤 - 吐血
2. 急性膵炎 - 便秘
3. 胃潰瘍 - 空腹時痛
4. 胆石症 - 急性腹症

あ 7-85 胆石症について誤っている記述はどれか。

1. 女性に多い。
2. 超音波検査は診断に有用である。
3. 疝痛発作がある。
4. 吐血を伴う。

あ 7-86 症状と原因との組合せで誤っているのはどれか。

1. 洞性頻脈 - 甲状腺機能亢進症
2. 前胸部痛 - 狭心症
3. チアノーゼ - 貧血
4. 樽状胸 - 肺気腫

あ 7-87 先天性心疾患として少ないのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症
2. 心房中隔欠損症
3. 心室中隔欠損症
4. ファロー四徴

あ 7-88 遺伝性疾患はどれか。

1. 血友病
2. 鉄欠乏性貧血
3. 特発性血小板減少性紫斑病
4. シェーンライン・ヘノッホ紫斑病

あ 7-89 変形性膝関節症の症状で誤っているのはどれか。

1. 運動開始時痛
2. 大腿四頭筋の肥大
3. 膝蓋跳動
4. 内側関節裂隙部の圧痛

あ 7-90 五十肩について誤っているのはどれか。

1. 原因は退行性変性
2. 肩関節可動域は正常
3. 運動時の痛み
4. 運動療法の適応

あ 7-91 腰部椎間板ヘルニアの症状で誤っているのはどれか。

1. 放散痛
2. 解離性知覚障害
3. 筋萎縮
4. 深部反射低下

あ 7-92 骨粗しょう症について誤っている記述はどれか。

1. 骨の化学的組成に異常がある。
2. 閉経後に多く発症する。
3. 病的骨折を起こしやすい。
4. 運動が予防に重要である。

あ 7-93 眼疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 白内障 - 眼圧上昇
2. 緑内障 - 水晶体混濁
3. 虹彩毛様体炎 - 斜視
4. 網膜色素変性症 - 視野狭窄

あ 7-94 食中毒について正しい記述はどれか。

1. 潜伏期が長い。
2. 原因となる微生物はウイルスが多い。
3. 胃腸炎の症状を示すものが多い。
4. 死亡することはない。

あ 7-95 ショックの原因とならないのはどれか。

1. 溺水
2. 出血
3. 熱傷
4. 重症感染症

あ 7-96 中毒性疾患でないのはどれか。

1. スモン
2. 水俣病
3. イタイイタイ病
4. アルツハイマー病

あ 7-97 障害とそのアプローチとの組合せで誤っているのはどれか。

1. 機能障害 - 外科的治療
2. 機能障害 - 特殊技能の獲得
3. 社会的不利 - 職場復帰の促進
4. 社会的不利 - 介護の保障

あ 7-98 身体障害に含まれないのはどれか。

1. 肢体不自由
2. 内部障害
3. 聴覚言語障害
4. てんかん

あ 7-99 前腕にのみみられる動きはどれか。

1. 回内
2. 屈曲
3. 伸展
4. 内転

あ 7-100 立位姿勢が安定する要因で正しい記述はどれか。

1. 重心の位置が高い。
2. 支持面が狭い。
3. 重心線が支持面に落ちる。
4. 体重が軽い。

あ 7-101 理学療法の内容で誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 治療体操
3. 電気治療
4. 職業訓練

あ 7-102 脳卒中のリハビリテーションで誤っている記述はどれか。

1. 状態に関係なく直ちに開始する。
2. 良肢位保持は拘縮を予防する。
3. 健側肢の筋力強化を行う。
4. 体位変換は褥瘡を予防する。

あ 7-103 脳性麻痺の早期訓練開始の目的で誤っているのはどれか。

1. 脳損傷の改善
2. 二次的な知的発育遅滞の予防
3. 関節拘縮の予防
4. 正しい運動パターンの獲得

あ 7-104 慢性関節リウマチのリハビリテーションで適切でないのはどれか。

1. 巧緻動作訓練を行う。
2. 強い抵抗運動を行う。
3. 自助具を積極的に利用する。
4. 疼痛軽減に物理療法を行う。

あ 7-105 変形性膝関節症のリハビリテーションで適切でないのはどれか。

1. 大腿四頭筋の強化
2. ハムストリングのストレッチ
3. 安静保持の厳守
4. 標準体重の保持

あ 7-106 脊髄損傷のリハビリテーションについて誤っている組合せはどれか。

1. 斜面台 - 起立性低血圧の予防
2. 弾性ストッキング - 骨萎縮の予防
3. プッシュアップ - 移乗動作の獲得
4. マット訓練 - 起居動作の獲得

あ 7-107 陽に属するのはどれか。

1. 気
2. 腹
3. 臍
4. 寒

あ 7-108 五臓と五根との組合せで正しいのはどれか。

1. 肝 - 鼻
2. 心 - 舌
3. 脾 - 耳
4. 肺 - 目

あ 7-109 脾の臓に関与しないのはどれか。

1. 運化
2. 血脈
3. 肌肉
4. 統血

あ 7-110 津液の宣散、肅降を主るのはどれか。

1. 肝
2. 心
3. 脾
4. 肺

あ 7-111 正邪の盛衰を示すのはどれか。

1. 表裏
2. 寒熱
3. 虚実
4. 陰陽

あ 7-112 腹証で瘀血を診る部位はどれか。

1. 心窩部
2. 季肋部
3. 臍部
4. 左腸骨窩

あ 7-113 四診について正しい組合せはどれか。

1. 望診 - 脈状
2. 聞診 - 口臭
3. 問診 - 硬結
4. 切診 - 顔色

あ 7-114 一呼吸に六動以上の脈はどれか。

1. 浮脈
2. 沈脈
3. 数脈
4. 実脈

あ 7-115 切診で診るのはどれか。

1. 舌苔
2. 咳嗽
3. 眩暈
4. 陷下

あ 7-116 前腕前面尺側を通る経絡はどれか。

1. 肺経
2. 大腸経
3. 心経
4. 三焦経

あ 7-117 流注が上腹部の中央から起こる経絡はどれか。

1. 肺経
2. 胃経
3. 三焦経
4. 脾経

あ 7-118 足三里穴に分布する神経はどれか。

1. 伏在神経
2. 深腓骨神経
3. 浅腓骨神経
4. 脛骨神経

あ 7-119 臍の高さにある経穴はどれか。

1. 大横
2. 気海
3. 大巨
4. 中極

あ 7-120 膀胱経に属する経穴はどれか。

1. 風池
2. 肩井
3. 殷門
4. 陽陵泉

あ 7-121 肘関節部にある経穴はどれか。

1. 太淵
2. 陽池
3. 大陵
4. 尺沢

あ 7-122 第3胸椎棘突起の直下にある経穴はどれか。

1. 肩外兪
2. 身柱
3. 心兪
4. 命門

あ 7-123 頭頂部にある経穴はどれか。

1. 百会
2. 頭維
3. 四白
4. 天柱

あ 7-124 経絡と募穴との組合せで正しいのはどれか。

1. 胃経 - 中府
2. 大腸経 - 中腕
3. 肝経 - 臈中
4. 脾経 - 章門

あ 7-125 次の文で示す患者に対し施術対象とする経絡はどれか。

「40歳の男性。1か月前に自動車事故にあい、手指の開閉がしにくく、小指の知覚麻痺がある。ジャクソンテスト陽性。」

1. 大腸経
2. 小腸経
3. 肺経
4. 心包経

あ 7-126 頭痛で施術対象となるのはどれか。

1. 高熱を伴うもの
2. 痛みが進行性に増悪するもの
3. 嘔吐を繰り返すもの
4. 頸、肩のこりを伴うもの

あ 7-127 慢性の肩こりに対して併用する治療で適切でないのはどれか。

1. 頸肩部のホットパック
2. 頸部の徒手牽引
3. 装具による頸部の固定
4. 僧帽筋への低周波通電

あ 7-128 コッドマン体操について誤っているのはどれか。

1. 五十肩の治療に応用する。
2. 鉄アレイなどのおもりを使用する。
3. 関節可動域を広げる目的で行う。
4. 側臥位で行う。

あ 7-129 胸郭出口症候群の患者への対応で誤っているのはどれか。

1. ウイリアムス体操を指導する。
2. 斜角筋部へ施術を行う。
3. 肩すくめ運動を勧める。
4. 項頸部から肩背部への施術を行う。

あ 7-130 次の文で示す患者の病態から考えて罹患部への局所治療の対象とする筋はどれか。

「50歳の男性。肩が痛む。結節間溝部に圧痛、ヤーガソンテスト陽性。」

1. 大円筋
2. 大胸筋
3. 上腕二頭筋
4. 上腕三頭筋

あ 7-131 橈骨神経痛に対する圧迫法の施術部位として適切なのはどれか。

1. 上腕内側部
2. 肘関節外側部
3. 前腕内側部
4. 手掌中央部

あ 7-132 仰臥位で坐骨神経伸展法を行う場合、適切なのはどれか。

1. 踵を持って牽引する。
2. 膝を伸ばしたまま挙上する。
3. 膝を曲げたまま胸に押しつける。
4. 膝を曲げ、外方の床面へ押し下げる。

あ 7-133 次の文で示す患者に対する施術目的で誤っているのはどれか。

「58歳の女性。動作開始時に膝が痛む。内反変形、大腿四頭筋の萎縮がみられる。」

1. 関節痛の軽減
2. 関節部の循環改善
3. 変形の改善
4. 軟部組織の緊張緩和

あ 7-134 ベル麻痺の運動法として適切でないのはどれか。

1. 強く閉眼する。
2. 額にしわを寄せる。
3. 歯を食いしばる。
4. 口笛を吹く。

あ 7-135 高血圧症で施術の適応性の最も高いのはどれか。

1. 肩こりと不眠があるもの
2. 動悸と胸痛があるもの
3. 頭痛とめまいがあるもの
4. 悪心と嘔吐があるもの

あ 7-136 気管支喘息患者への対応で適切でない記述はどれか。

1. 喘鳴があるときには起坐姿勢で背部への軽擦を行う。
2. 発作間歇期には全身マッサージを行う。
3. ハウスダストが関与しているときには、室内を清潔に保持する。
4. 発作中には頸部の徒手牽引を行う。

あ 7-137 次の文で示す患者への対応で適切でないのはどれか。

「26歳の女性。胃腸が弱く下痢と便秘を繰り返す。精神的ストレスが加わると症状が悪化する。」

1. 背腰部に軽い指圧を行う。
2. 腹部に軽擦法を行う。
3. 全身に軽いマッサージを行う。
4. 腹部に冷電法を行う。

あ 7-138 月経困難症に対する施術目的で適切でないのはどれか。

1. 腰殿部の筋緊張促進
2. ストレスの緩和
3. 自律神経機能の調整
4. 内分泌機能の調整

あ 7-139 足関節捻挫の応急処置として適切でないのはどれか。

1. 冷却
2. 揉捏
3. 安静
4. 固定

あ 7-140 次の文で示す患者への対応で適切でないのはどれか。

「65歳の女性。やせ型。主訴は腰痛。医療機関で骨粗しょう症と診断されている。発症後5年を経過し、A DL上大きな支障はない。」

1. 温熱療法を行う。
2. 腰椎の矯正法を行う。
3. 日光浴を勧める。
4. 疼痛部を中心に軽擦法を行う。

あ 7-141 古方あん摩のうち関節を動かすのはどれか。

1. 解釈の術
2. 調摩の術
3. 利関の術
4. 肩井の術

あ 7-142 あん摩の治療的作用に含まれないのはどれか。

1. 転調作用
2. 止血作用
3. 鎮静作用
4. 反射作用

あ 7-143 切打法ではどの部位を使用するか。

1. 指頭
2. 小指尺側
3. 手背
4. 手掌

あ 7-144 手掌や足底に適した軽擦法はどれか。

1. 二指軽擦法
2. 環状軽擦法
3. 四指軽擦法
4. 指髁軽擦法

あ 7-145 強擦法を構成する手技はどれか。

1. 軽擦と揉捏
2. 軽擦と圧迫
3. 揉捏と振せん
4. 揉捏と圧迫

あ 7-146 指圧について誤っている記述はどれか。

1. 内臓の機能を調節する。
2. 神経痛にはワレーの圧痛点に施術する。
3. 運動麻痺には持続圧迫法を用いる。
4. 運動操作は健康増進法として応用される。

あ 7-147 軽擦法によって生じる触覚の伝導に関与しないのはどれか。

1. 高閾値侵害受容器
2. A 線維
3. 脊髄神経節
4. 後角

あ 7-148 大腿内側のあん摩で施術する筋はどれか。

1. 大腿二頭筋
2. 大腿直筋
3. 大腿筋膜張筋
4. 薄筋

あ 7-149 セリエのストレス学説でストレス刺激に対する生体反応はどれか。

1. 脾臓の萎縮
2. 胸腺の肥大
3. 副腎皮質の萎縮
4. 胃・十二指腸潰瘍

あ 7-150 キャノンが提唱したのはどれか。

1. サイバネティックス
2. ホメオスターシス
3. 汎適応症候群
4. 過剰刺激症候群